

Internet Explorer



のサポート終了 に向けて

いまから準備しておくこと

Internet Explorer (IE11) のサポートは、ことし6月16日に終了し、それ以降はブラウザとしてのIE11の起動ができなくなります。現在IE11を使用している場合の対処法を紹介します。

株式会社 リブロワークス

ことし6月をもって IE11のサポート終了

Microsoft は、ことし6月16日（日本時間）をもって、特定の Windows バージョンについて、IE 11 のサポートを終了することを発表しています。そして、IE 11 の後継ブラウザである Edge に乗り換えるよう呼びかけています（図表1）。

ポイントは、①ことしの6月16日以降、Microsoft による IE 11 のサポートが終了すること、②サポートが終了するだけでなく、IE 11 を起動しようとしても、Edge が起動するようになること、③対象となるのは Windows 10（以下、「10」といいます）であることの3点です。つまり10ユーザーは、Webブラウザとして Edge しか使えなくなります。

一方、対象外となっている Windows 7 や 8.1 など、古い Windows のユーザーは IE の起動が引き続き可能です。

ただし、IE のサポート終了に伴い更新プログラムが配布されなくなるため、セキュリティ上のリスクが非常に高まります。

Windows のバージョンにより 異なる対応が求められる

Windows のバージョンごとに対応の方法を見ていきます。

(1) Windows 6 バージョンを把握する

はじめに、現在利用している Windows のバージョンを確認しましょう。バージョンを確認するには、Windows の「スタートメニュー」↓「設定」をクリックし、設定画面を開きます。

次に「システム」↓「詳細情報（「バージョン情報」の場合もあります）」をクリックしましょう。中段あたりに「Windows の仕様」という項目が表示されますので、「エディション」欄を見ればバージョンを確認できます。

Windows のバージョンごとに求められる対応を図表2にまとめたので参考にしてください。

Windows 11（以下、「11」といいます）では、IE 11 がもともと利用できないようになっていたので、対応は不要です。10 のパソコンで IE 11 を利用しているのであれば、Edge への乗り換えが必要です。

図表 1 IE11 サポート終了の概要

概要

- ・以下の対象について、2022年6月16日(日本時間)をもってIE11のサポートが終了する
- ・終了日以降は、IE11を起動しようとしてもIE11は開かず、Edgeが開くようになる
- ・ただし、EdgeのIEモードを開く際にIE11のプログラムが必要となるため、IE11デスクトップアプリケーションがデバイスから削除されることはない
- ・終了日以降もIE11対応サイトを開く場合はEdgeのIEモードを使う

対象

＜対象(サポート終了)となるもの＞

- 半期チャネル(SAC ※ 1)で配信されるInternet Explorer 11デスクトップアプリケーション
 - ・Windows 10デスクトップSKU ※ 2 (20H2 ※ 3以降)
 - ・Windows 10 IoT (20H2以降)

＜対象外(影響なし)となるもの＞

- Microsoft EdgeのInternet Explorerモード(IEモード)
- Internet Explorerプラットフォーム(MSHTML/Trident)
- 以下で動作するInternet Explorer 11デスクトップアプリケーション
 - ・Windows 8.1
 - ・Windows 7 ESU ※ 4
 - ・Windows Server SAC (全バージョン)
 - ・Windows 10 IoT LTSC ※ 5 (全バージョン)
 - ・Windows Server LTSC (全バージョン)
 - ・Windows 10 クライアント LTSC (全バージョン)

※ 1 : Semi-Annual Channel の略。半期に1回新バージョンが適用される。オフィスなどでもっとも利用されている

※ 2 : Stock Keeping Unit の略で、製品ごとに割り当てる番号を指す。この文脈だと「全エディション」の意味

※ 3 : 2020 年秋に公開された更新プログラムのバージョン

※ 4 : Extended Security Updates の略。Windows7はサポートが終了したが、1年単位で購入して、最大3年間追加でサポートを受けられるサービスのこと

※ 5 : Long-Term Servicing Channel の略。自動更新は行わず、10年の長期サポートが提供されるもの

出典：Microsoft「Internet Explorer 11 デスクトップアプリケーションのサポート終了 - 発表に関連する FAQ のアップデート」

図表 2 Windows のバージョンごとの対応

OS	求められる対応
Windows11	はじめてからIE11が利用できないので対応不要
Windows10	IE11を利用しているのであればEdgeへ乗り換える。IE11対応サイトを開く場合はEdgeのIEモードを使う
Windows7、Windows8.1	パソコンの買い替えを検討

ここでは、EdgeでIE用サイトを利用する方法を見ていきます。

(1) IEモードを使ってEdgeでIE用サイトを閲覧

IEモードとは、IE11のプログラムの一部を使うことで、IEでなければ開けないシステムやWebサイトをEdgeで開くしくみです。Edgeだけで、最新のWebサイトも利用でき、かつIE用サイトも見られるのが強みです。

IEモードの特徴として、①タブごとにIEモードで開ける、②常にIEモードで開きたい場合は、そのURLを登録できる、という2点があります(次ページ図表3)。

便利なIEモードですが、あくまでEdgeに対応できないシステム

なお、現在IE11をまったく使っておらず、EdgeなどIE11以外のWebブラウザを使用しているのであれば特に対応は必要ありません。

そして、現在Windows7や8.1を使っているのであれば、パソコンの買い替えを強くおすすめします。その理由はIE11のサポートが切れてしまうから、というだけでなく、OSそのものに対するサポートも近く終了するからです。

Windows7はMicrosoftによる延長サポートが2020年1月

14日で終了しており、Windows8.1も2023年1月10日に終了する予定です。

OSのサポートが切れたパソコンは、セキュリティ的に非常に危険です。最新のパソコンに買い替えることでCPUなどの性能が上がり、より効率的に仕事ができるようになるメリットも得られます。

(2) 10利用者はEdgeへ乗り換える準備を

10のパソコンでIE11を利用しているのであれば、次のような流れでEdgeへ乗り換えましょう。

まずは、IE11を使って利用するシステムやWebサイトを洗い出しましょう。すべて洗い出せたら、それらを次の2つに分けます。

「推奨環境」ページ等を見れば確認できるはずです。

① IE11にしか対応していない

② Edgeにも対応しているがIE11で開いているだけ

結論からいうと、①の場合も②の場合もEdgeに乗り換えることになるのですが、「IEモード」という機能を使う必要があるか否かが異なってきます。

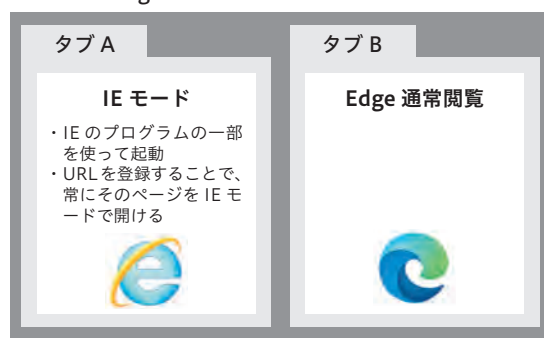
EdgeでIE用サイトを利用できる「IEモード」

①に当てはまるのであれば、IE11のサポート終了以降はEdgeのIEモードを使いましょう。この機能を使えば、Edge上で、IE11でなければ開けないシステムやWebサイトを開くことが可能です。

②の場合は、IEモードを使う必要はありません。Edgeで通常どおり閲覧してください。

図表3 IEモードのしくみ

Microsoft Edge



ムのための延命手段である点に注意してください。

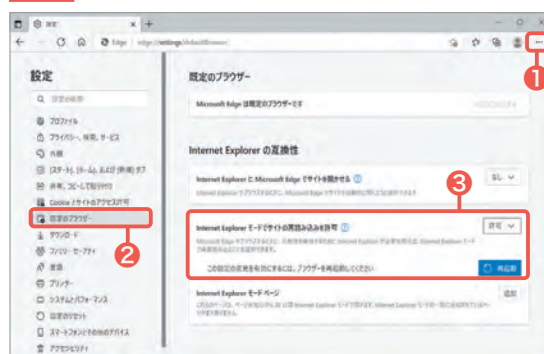
MicrosoftはIEモードを「少なくとも2029年まではサポートする」としており、永久に利用できるわけではありません。将来的にEdgeへの対応が完了したら、IEモードではなくEdgeで利用するようにしましょう。

(2) **IEモードの利用方法**

IEモードはEdgeが持つ機能の1つで、Edgeさえあれば利用できます。

現在10や11のパソコンを使っているのであれば、Edgeがあらかじめインストールされています。ただし、IEモードは、Windows

図表4 IEモードをONにする



とEdgeに最新の更新プログラムがインストールされていないと利用できません。最新の更新プログラムを適用したうえで利用するようにしましょう。

では、IEモードを利用する方法を説明します(図表4)。

まずはEdgeを開き、①右上にある「…」をクリックして、「設定」をクリックします。

設定画面が開いたら、②メニューから「既定のブラウザ」を選択します。

「既定のブラウザ」を開いたら、③「Internet Explorer モードでサイトの再読み込みを許可」で「許可」を選択してから、「再

図表5 次回以降 IE モードで開くか設定



起動」をクリックします。

Edgeが再起動されたら、IEモードで開きたいWebサイトにアクセスしてから、右上にある「…」をクリックして、「Internet Explorer モードで再読み込みする」をクリックしましょう。

WebサイトがIEモードで開き直されたら、画面上部に表示されているURL欄を確認しましょう。IEのアイコンが表示されていることになり。なお、そのWebサイトを常にIEモードで開きたい場合は「次回、このページをInternet Explorer モードで開く」をONにしよう(図表5)。

IE11からEdgeに乗り換える際に、IE11で登録した設定やお気に入りを引き継ぎたいこともあるでしょう。その場合は①Edgeの「設定」画面を開き、②「プロファイル」↓③「ブラウザーデータのインポート」をクリックしましょう(図表6)。

「他のブラウザーからインポートする」という項目があるので、そのなかの「インポートする項目を選択してください」をクリックします。

「インポート元」に「Microsoft Internet Explorer」を選んでか

IE 11からEdgeにデータを引き継ぐ

IEモードを終了したいときは、画面上部に表示されている「終了」ボタンをクリックします。

IEモードは、あくまで「IE11にしか対応していないWebサイト」を閲覧するときに使用するものです。近年、IE11をサポート外にするWebサイトが増えており、そうしたWebサイトではそもそも「Internet Explorer モードで再読み込みする」が表示されません。

図表6 Edge にデータを引き継ぐ



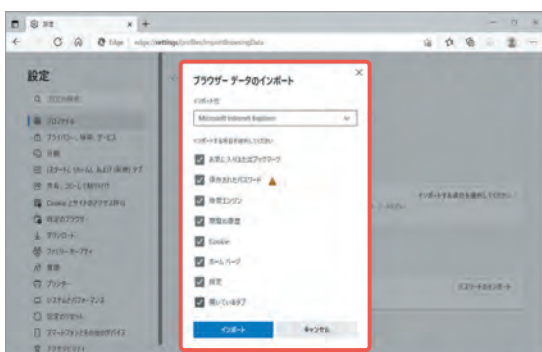
「プロファイル」→「ブラウザーデータのインポート」を開く

ら、Edge に引き継ぎたいデータを選択して「インポート」をクリックすれば、IE 11 から Edge ヘデータが引き継がれます。お気に入り、閲覧履歴、IE 11 で開いていたタブなどを簡単に Edge に引き継ぐことができます（図表7）。

「設定」の項目も引き継ぐことができますが、IE 11 の「インターネットオプション」の「セキュリティ」で設定した内容などは引き継がれません。

また、IE 11 で発行した電子証明書

図表7 インポート元と項目を選ぶ



今日、セキュリティ対策は欠かせないものになっています。仮に

Edge に乗り換えて安全かつ快適に仕事をしよう

す。IE 11 ですでに発行している電子証明書は、基本的には自動的に IE モードへ引き継ぐことができます。引き継ぎがうまくいかない場合は、金融機関に問い合わせるなどして確認しましょう。

また金融機関によつては、IE モードで新規に電子証明書の発行をする手順を公開しているところもあります。自社が利用する金融機関の案内を確認してください。

個人情報情報が流出した場合、社会的な信用とブランドイメージの失墜や経済的な損失など、企業が被る損害は計り知れません。

Edge は IE 11 よりも多くのセキュリティ対策機能を備えています。たとえば、フィッシング詐欺（偽の電子メールを送付するなどして受信者の個人情報盗み取る行為）と、マルウェア（ウイルスなど有害なソフトウェアやコードの総称）を防御できる Microsoft Defender SmartScreen や、ダウンロードウェブ（一般的なウェブブラウザでは検索できないウェブサイトを）をスキャンして個人情報の漏洩を検知する、パスワードモニター機能を搭載しています。なお、Microsoft Defender SmartScreen もパスワードモニター機能も、Edge の「設定」画面からオン・オフを切り替えることが可能です。

また IE 11 では、セキュリティ上の欠陥が発見された際、その欠陥を修正するためのプログラムを月ごとに配信して対応していました。一方 Edge では、緊急度の高いものであれば数日で配信するとしています。欠陥が発見されてから解消されるまでの間を狙った攻撃リワークス（IT を中心とした書籍や雑誌の企画、編集、デザインを手がけるプロダクション。取り扱うテーマは、ソフトウェアの解説書やプログラミング・Web デザインの入門書など幅広い）

撃であるゼロデイ攻撃対策の面から見ても、Edge のほうが安全だといえるでしょう。

Edge に乗り換えるメリットは、セキュリティ面だけではなく、次のような利点があります。

- ・IE 11 では利用できない Web サービスが利用できる
- ・IE 11 より動作が速い
- ・拡張機能を導入して、Edge に機能を追加できる
- ・「コレクション」機能を使って、ブックマークよりも手軽に Web ページの一部やリンクをスクラップしておける
- ・「サイドバー」で、気になった言葉をすぐに検索できる
- ・「垂直タブバー」で通常横並びのタブを縦に表示できるので、目的のタブを一目で見つけることができる

・開きっぱなしで操作していないタブは「スリープタブ」機能をオンにすることでメモリを解放してくれるため、パソコンが軽くなる

Edge に乗り換えることで、セキュリティ対策ができるだけでなく、その機能を駆使することで生産性の向上も見込めます。